

ISSN 1880—1412

千葉県立中央博物館分館 海の博物館ニュースレター

いそっぴ通信 No.7

(平成17年度版)

The Newsletter of the Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba

No. 7 (1 April 2005—31 March 2006)



千葉県立中央博物館 分館海の博物館

はじめに

千葉県立中央博物館分館海の博物館は、平成11年の開館以来7年にわたって活動が続けてきました。今年度も様々な出来事がありました。

博物館の活動といえば、いろいろな物を展示する事だけだと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、実際にはそれ以外にもさまざまな活動を行っています。一般の方や学校等を対象とした野外観察や講座などの教育普及活動も博物館活動の大きな柱です。

それに加え、多様な資料を集めて保存する資料収集や、調査研究を行うことも、博物館にとってとても重要な活動です。千葉県の海には、まだまだ分からない事がたくさんあります。海の博物館では資料収集・調査研究活動をとおり、千葉県の自然誌を記録し、分類や生態など、海の生きものの特性を解明していく事を目指しています。さらに、質の高い展示活動や教育普及活動を提供するためにも、これらの活動は欠かすことができません。

今年度のいそび通信では、調査研究活動の成果として今まで割愛していた項目も掲載することにしました。よりよい博物館づくりのために、見えない所でもさまざまな活動を行っている事を知っていただければ幸いです。

目 次

平成17年度のトピックス	1
勝浦市立郁文小学校との連携授業	1
平成17年度マリンサイエンスギャラリー	
「～これもハゼ、これでもハゼ～ ハゼの世界」	2
平成17年度収蔵資料展	
「イッカクー長いキバを持つクジラー」	3
平成17年度の活動記録	4
展示活動	4
教育普及活動	8
資料収集活動	14
調査研究活動	16
事務室から	20
平成18年度の行事案内	22
職員から	26

表紙の解説：オニハゼ *Tomiyamichthys oni* (Tomiyama)

礫混じりの砂地や砂泥底に生息しています。ニシキテッポウエビやその他の様々な種類のテッポウエビ類と単独かペアで共生しているハゼです。普通は水深10m以深に見られますが、館山市の沖ノ島周辺では水深3m前後と浅いところに見られ、個体数も非常に多く生息しています。オニハゼの分布は、千葉県館山湾が東限記録になっています。

勝浦市立郁文小学校との連携授業



郁文小学校地先の松部の磯での授業風景



平成18年3月26日成果発表会の会場
(海の博物館ロビー)



成果発表会の様子

海の博物館では、開館以来、地元勝浦を含め県内外の多数の学校を対象に、磯の生きものの野外観察・実習授業を行ってきました。これらの授業は、多くの場合1日限りの授業で、「自然に親しむ機会の提供」、「磯の生きもの学習のきっかけづくり」、といった位置付けとなっています。今年度は、これらの経験をもとに、勝浦市立郁文小学校と共同で1年間を通じた磯の生きものに関する共同授業を行いました。

対象は郁文小学校4年生で、

1. 年間を通じた磯の生きものの変化を捉える。
2. 磯の生きもののオリジナル図鑑をつくる。
3. 磯の生きものの生態や形態などについて、室内実験・観察を行う。

という3つの学習内容を設定し、小学校地先の磯での定期的な磯観察、採集した生きものの長期飼育観察、小学校教室または海の博物館実験室での実験・観察などを毎月一回行いました。これらの成果は、図鑑と冊子にまとめられました。また、3月26日には、海の博物館ロビーを全面使用して、児童による成果発表会を開催しました。児童達の発表はとてもすばらしく、ご家族の方だけでなく、一般の来館者の方々も足をとめて発表に聞き入っていました。

平成17年度マリンサイエンスギャラリー
 ～これもハゼ、これでもハゼ～
ハゼの世界
 平成18年2月25日～5月7日

今年度のマリンサイエンスギャラリーは、ハゼの仲間にスポットをあて紹介しています。ハゼは、季節の風物詩として東京湾などのハゼ釣りや、磯や川遊びでタモ網を持った子どもたちにとって格好の遊び相手になっています。池や沼、河川、干潟、砂浜、岩礁、サンゴ礁から、はては地下水脈の暗黒の世界も生活の場とし、その日本産の総種類数は実に560種にもなり、日本産魚類の総数が約4,000種なので、その1割以上がハゼの仲間ということになります。魚類の中で、“種の多様性の高さ”をもっとも実感できるグループのひとつが、ハゼの仲間です。

今回の展示では、これまでに当館が収集・保管してきたハゼ類の標本や画像資料を中心に、ハゼ類の種類や体形を紹介する「ハゼってどんな生きもの?」、ハゼ類の生活を紹介する「ハゼのくらし」、食用になるハゼを紹介する「人とかかわり」、「千葉県の手賀沼」などの4コーナーで紹介しています。

「ハゼってどんな生きもの?」

一般に「ハゼ」とよばれている魚たちは、分類学的にはスズキ目(もく)ハゼ亜目(あもく)魚類のことを指します。日本産ハゼ亜目魚類は、ツバスハゼ科、ドンコ科、カワアナゴ科、ヤナギハゼ科、ハゼ科、スナハゼ科、クロユリハゼ科、オオメワラスボ科、シラスウオ科の9科によって構成されています。ハゼ類の多くは、円筒形でずんぐりした体型をしています。中には著しく側扁したタンザクハゼの仲間やつぶれた体のツバスハゼ等もあります。これらは体の形が解るように実際に標本を手にもって観察できます。日本一小さな魚は、ハゼの仲間、ゴマハゼの仲間やシラスキバハゼは、体長2cm以下で大人になります。水槽で紹介している体長1cmのミツボシゴマハゼはもう大人です。

「ハゼのくらし」

ハゼ類は、水の底にへばりついてはいるばかりではありません。泥干潟に住むトビハゼやトカゲハゼなどは半陸上生活をし、サツキハゼやハナハゼなどのクロユリハゼ科のハゼ類のほとんどは、遊泳生活をしています。このように河川、干潟、マングローブ林、砂浜、岩礁やサンゴ礁など様々な環境にくらすハゼ類を環境





別に紹介しています。また、大きな転石のすき間にくらすオオミズハゼは、間近で観察出来るようにこぶし大の石をいれた水槽でその生態を展示しています。約30年ぶりに再発見されたドウクツミズハゼなどは標本とパネルで紹介しています。

「人とのかわり」

ハゼの仲間にも、食材として利用されている種類があります。関東地方では、ハゼといえば天ぷらや正月の甘露煮などの料理が有名ですし、秋の風物詩ともなっている江戸前のハゼ釣りは、根強い人気があります。全国的に見ると、食材として広く流通している種類は少なく、デパートの地下やスーパーマーケットでパック入りのハゼを見かけることはありません。むしろ地元で食べる地域色豊かな“郷土料理”

の食材として親しまれています。また、漁獲対象のハゼの生態や行動をうまく利用した独特の漁法を使っている地域があります。有明海で行われているムツカケやスポカキ漁はムツゴロウやワラスボを捕る漁法で、実際に使われていた道具を展示紹介しています。

「千葉県のハゼ」

千葉県からは約100種のハゼ類が確認されており、その内の50種を紹介しています。の中には、ネジリンボウやヒレナガネジリンボウなど、まだダイバーが水中で観察しただけのものや、アカイソハゼやクサハゼなど、今後新種として発表される順番待ちの種も含まれています。千葉県産の標本に基づき記載されたハゼ類もパネルや写真等で紹介しています。

この展示をとおして、ハゼ類の種の多さと小さなハゼがたくましくくらしていることを実感していただければ幸いです。3月末までに9,366名の入館者を迎えることが出来ました。

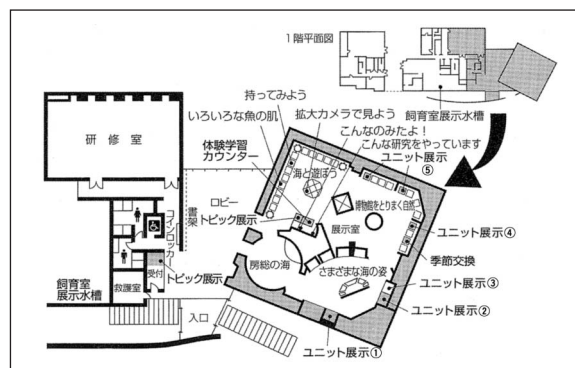
平成17年度収蔵資料展
イッカク
—長いキバを持つクジラ—
 平成17年7月2日～9月4日



今年度は、夏休みに外房で海水浴や観光をするお客さまにご覧いただけるよう、7月2日から9月4日まで、収蔵資料展「イッカク—長いキバを持つクジラ—」を開催しました。イッカクとは体長約5メートルになるハクジラ類の一種です。オスの左側のキバがらせん状に長く伸びることが大きな特徴で、その長さは3メートルに達するものもあります。この展示では、研修室の半分のスペースを使って、当館で所蔵しているイッカクのオスの全身骨格標本を皆さまにご覧いただきました。また、イッカクの生物学的な話題を解説したパネルも設置し、イッカクについてより深く知っていただけるようにしました。

1. 展示活動

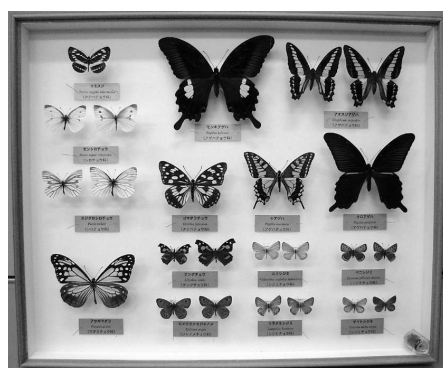
海の博物館では、常設展示やマリタイムシネマの上映、マリンサイエンスギャラリー・収蔵資料展の開催などをおして、房総半島をとりまく海の自然を紹介しています。



(1) ユニット展示、季節展示、自然観察エリアの展示交換 ユニット展示

場 所	交換前のタイトル	交換後のタイトル	交 換 日
①	カジメの根元にすむ生きもの ➡	カジメ海中林	平成17年 4月 3日
②	魚の子育て ➡	種は旅する	平成17年 5月 1日
②	種は旅する ➡	南の海からやってくる魚たち	平成17年12月28日
③	館山海底谷 ➡	サンゴと褐虫藻の共生	平成17年 7月 3日
④	北限の植物 ➡	海辺のアジサイ・山のアジサイ	平成17年 7月31日
⑤	ペンキのような海藻 ➡	巻貝に生える海藻	平成18年 2月10日

季節展示



春に見られるチョウのなかま
（「春の昆虫」で展示）

「博物館をとりまく自然」のコーナーでは、それぞれの季節に実際に見られる生きものを紹介するため、昆虫や植物写真の展示品を季節に合わせて交換しています。また、それぞれの季節のトピックスも紹介しています。

自然観察エリア

当館では、博物館前の磯と鵜原理想郷を自然観察エリアとし、そこで見られる生きものの情報を展示室の該当コーナーで紹介しています。理想郷観察エリアはきれいな花ばかりでなく、さまざまな昆虫類や毛戸浦の磯など、他の見どころもいっぱいです。



オオカマキリ



ヤマタニシ



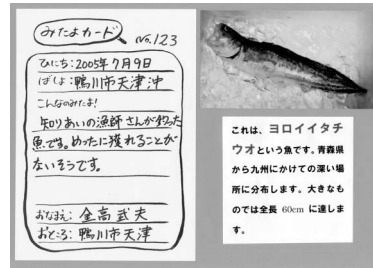
オオキンカメムシ



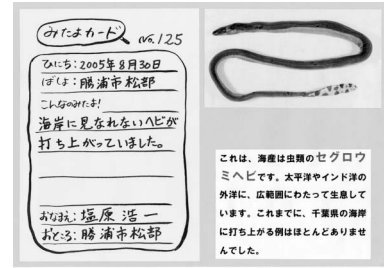
毛戸浦の磯

(2) こんなのみたよ！

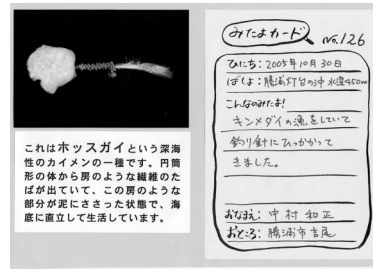
展示室には、来館者や地元の方から寄せられた生きものの情報によって成り立っているコーナーがあります。それが「こんなのみたよ！」です。今年度は、潮だまりでつかまえた見えない生きものや、漁師さんの網にかかった変わった形の魚などの情報をお寄せいただき、常設展示の中では紹介しきれなかった種類を補足的に展示することができました。随時情報を受け付けていますので、お気軽に海の博物館スタッフまで声をおかけください。



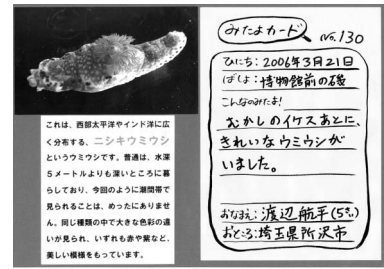
みたよカードNo.123
ヨロイタチウオ



みたよカードNo.125
セグロウミヘビ



みたよカードNo.126
ホッスガイ



みたよカードNo.130
ニシキウミウシ

平成17年度に紹介した話題			
118	ワレカラのなかま	125	セグロウミヘビ
119	キビレミシマ	126	ホッスガイ
120	カスザメ	127	アシナガツノガニの大群
121	ツノヒラムシ	128	キタユウレイクラゲ
122	ウスユキミノガイ	129	ヒメツチハンミョウ
123	ヨロイタチウオ	130	ニシキウミウシ
124	ザラカイメン・ムラサキカイメン		

(数字は開館時からの通し番号です)

(3) こんな研究をやっています

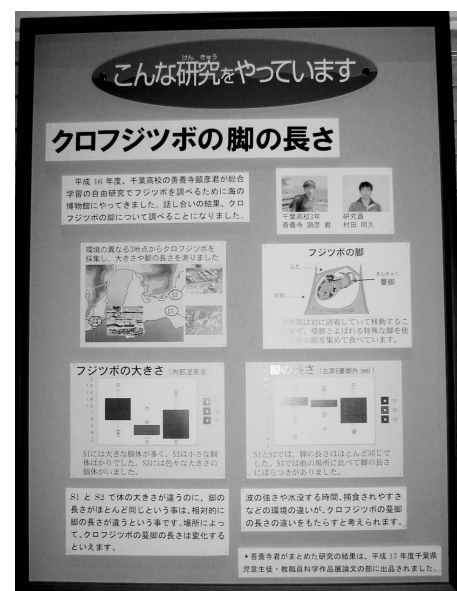
海の博物館には、現在8名の研究員が常勤しており、それぞれに決まった分類群の海洋生物を調査・研究しています。その成果は、各学会で発表され、学術雑誌に公表されますが、一般にはこれらを目にする機会はなかなかありません。当館では、展示室の一角でそれぞれの研究テーマや研究結果のエッセンスを紹介しています。

【今年度紹介した研究テーマ】

房総半島の魚類相 (藍澤正宏)

クロフジツボの脚の長さ (村田明久)

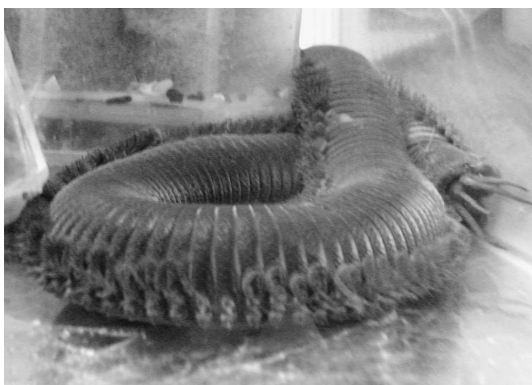
深海イソギンチャク調査 (柳研介)



(4) トピック展示



オオケブカガニ



オニイソメ

当館では、興味深い生きものが採れたりしたとき、展示室の体験カウンターなどに即席で水槽や解説パネルを設置して、トピック的な展示を行っています。今年度は表のような生きものを紹介しました。

平成17年度に紹介した話題
オオケブカガニ (H17.5.29~H17.8.5)
シイラの稚魚 (H17.7.30~H17.7.31)
カツオノエボシ (H17.8.3)
ケアシガニ (H17.8.9~H17.9.28)
オニイソメ (H17.8.6~H17.9.19)
ハナミノカサゴ (H17.09.28~)
ホッスガイ (H17.12.28~)
ホネナシサング (H18.2.9~H18.2.24)

(5) マリンサイエンスギャラリー

毎年異なったテーマで海の生きものの話題を深く掘り下げて紹介した、海の博物館研修室で開催される企画展示です。今年度の展示のようすは4~5ページをご覧ください。

ウミウシギャラリー写真



ただきましたが、パネル展示はご好評につきその後も継続しており、平成18年の5月中旬までご覧いただける予定です。

平成17年のゴールデンウィーク中に、千葉県で見られるウミウシについての拡大版トピック展示を行いました。この展示では、数個の水槽で生きているウミウシ類のべ約20種をご覧いただくとともに、これまでに当館の調査で撮影されたウミウシ類100種の写真をパネルとして展示しました。水槽での展示は短期間で終了させてい

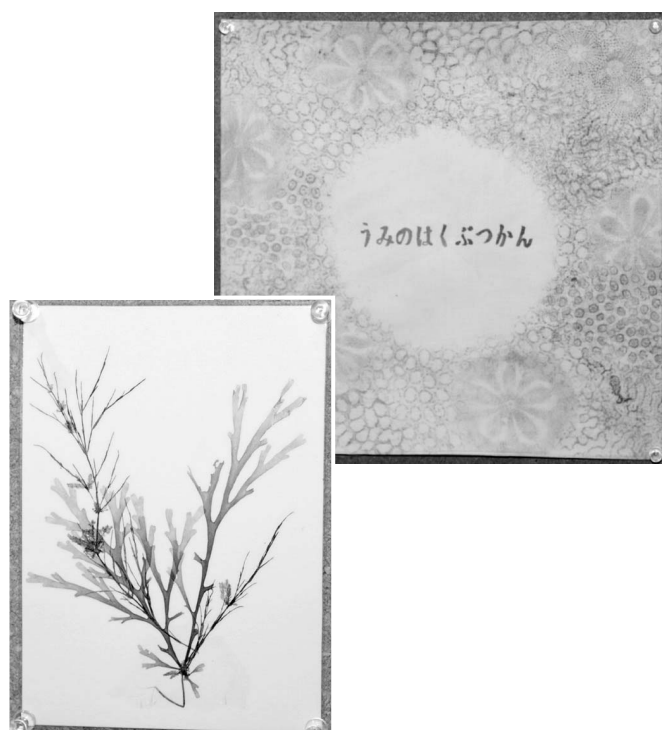
(6) 体験学習指導員の活動

● 展示室の歩き方

「展示室の歩き方」は約10分間で展示室をご案内する行事です。当館の展示室は決して広いとは言えませんが、小さいなりにまとまっていて見所も充分あります。皆様にお伝えしたいことがたくさん有り過ぎて短い時間の中で何をお話しようか迷うほどです。解説の他にも地元の情報をお教えしたり、お客様自身が海での体験談などをお聞かせ下さることもあり時間延長ということもしばしばです。かしまった雰囲気 of 解説ではありませんのでお気軽にお声を掛けてください。

● 海の体験コーナー

「海の体験コーナー」は月に2回程の頻度で開催し三種類あるメニューを順番に行っています。どのメニューも参加者の皆様にその場で挑戦していただく内容ですが、興味を持っていただけた方の為に御自宅に帰られてからも再挑戦できるよう、使用する道具や作業手順を説明した解説シートをお配りしています。参加者にはお子様が多いのですが大人の方でも充分楽しんでいただけるメニューとなっております。来館の記念にぜひご参加ください。



海上保安署ポスター展



海の博物館と同じ勝浦市にある勝浦海上保安署では、平成17年5月から9月にかけて「海洋環境保全推進運動」および「海の交通安全」のテーマで図画コンクールの作品を募集し、小中学生の作品316点の応募がありました。このうち、勝浦地区を中心とした作品約100点を、当館の研修室において11月19日～27日の期間展示しました。作品はいずれも力作ぞろいで、来館者の皆様にご好評をいただきました。

2. 教育普及活動

海の博物館では、みなさまが海と触れあい、海に関する知識を深めてもらえるような、さまざまな活動を行っています。

(1) 観察会・講座・フィールドトリップ・バックヤードツアー・タッチプールツアー

今年度は観察会14回、講座12回、フィールドトリップ18回、バックヤードツアー4回を開催しました。また、子供会などのリクエストに応じて、団体を対象としたフィールドトリップを9回実施しました。今年度はさらに、夏休み期間中にタッチプールツアーを17回行い、計179名の参加がありました。

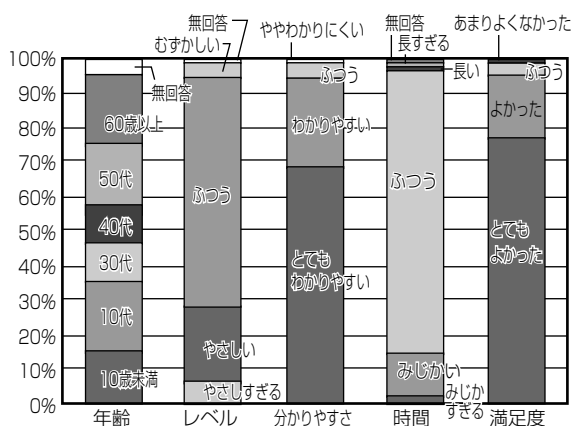
● 観察会

実施日	行事名	担当	参加者数
H17.4.10(日)	親子で磯の生き物を探そう入門編	川瀬 裕司	11
H17.4.24(日)	ウミウシを探そう	立川 浩之	11
H17.5.8(日)	親子で磯の生き物を探そう	村田 明久	14
H17.5.29(日)	春の植物	野口 昭造氏 1)	8
H17.7.31(日)	流れ藻に付く稚魚	乃一 哲久	4
H17.8.7(日)	水中メガネで海の生きものを観察しよう	柳 研介	24
H17.8.20(土)	エビ・カニを探そう	奥野 淳兒	9
H17.8.21(日)	親子で磯の小魚を探そう	藍澤 正宏	7
H17.8.28(日)	夏の植物	野口 昭造氏 1)	5
H17.10.23(日)	秋の植物	野口 昭造氏 1)	11
H18.1.22(日)	船に乗って海鳥を観察しよう1	桑原 和之 2)	5
H18.2.26(日)	冬の植物	野口 昭造氏 1)	6
H18.3.5(日)	船に乗って海鳥を観察しよう2	桑原 和之 2)	10
H18.3.18(土)	海藻を観察しよう	菊地 則雄	8

1)外部講師 2)中央博物館



アンケートの結果と参加者の声



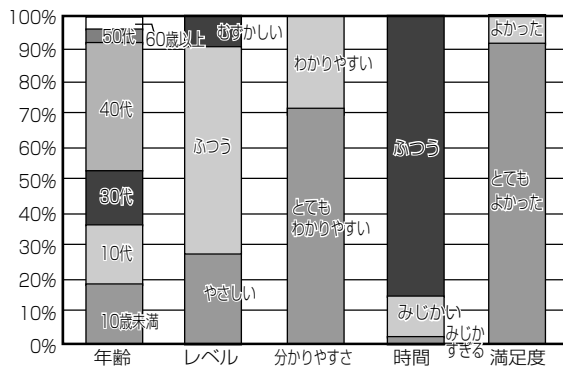
- ・とってもたのしかったです。いろんな魚をしりました。(「親子で磯の生き物を探そう入門編」小学生女性)
- ・水が冷たかったが、実際に魚や貝を海の中で見れて良かったです。(「水中メガネで海の生きものを観察しよう」30代女性)
- ・珍しい生物やヤドカリなどが見れてうれしかったです。先生もとても親切にしてくださったので楽しかったです。(「エビ・カニを探そう」10代女性)
- ・楽しい雰囲気にとっても親しみのもてる観察会です。どうもありがとうございました。(「夏の植物」60代女性)

● 講 座

実施日	行事名	担当	参加者数
H17.4.24(日)	ウミウシを調べよう	立川 浩之	9
H17.5.8(日)	親子で磯の生きものを観察しよう	村田 明久	14
H17.7.3(日)	親子で魚拓を作ってみよう	乃一 哲久	11
H17.7.17(日)	親子で標本を作ってみよう	乃一 哲久	13
H17.9.4(日)	イソギンチャクを知る	柳 研介	2
H17.11.13(日)	温帯の海・シドニーの魚	川瀬 裕司	2
H17.12.18(日)	ダイバーのためのハゼ講座	藍澤 正宏	1
H18.1.22(日)	海辺の野鳥	桑原 和之	6
H18.1.29(日)	クジラの雑学講座	藍澤 正宏	1
H18.2.12(日)	ダイバーのためのエビ・カニ講座	奥野 淳児	5
H18.3.5(日)	海鳥	桑原 和之	7
H18.3.19(日)	顕微鏡で海藻を観察しよう	菊地 則雄	2



アンケートの結果と参加者の声



- ・楽しく参加できました。どうなることやらと思っていましたが、それなりに3人3様の物が出来上がりました。ありがとうございました。(「親子で魚拓を作ってみよう」30代・10歳未満親子)
- ・初めて標本を顕微鏡で観察しました。かなり楽しかったです。ヤドカリのヘンテコな形がよくわかりました。(「ダイバーのためのエビ・カニ講座」30代女性)

・時間が長いと思いましたが、顕微鏡を見たり、お話を聞いたりしていたらすぐに過ぎてしまいました。とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。(「顕微鏡で海藻を観察しよう」40代女性)

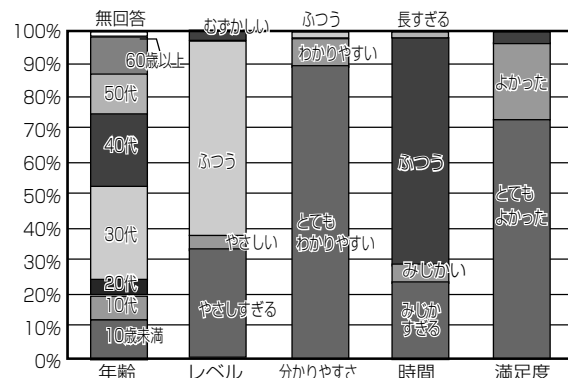
● フィールドトリップ

実施日	担当	参加者数
H17.4.9(土)	菊地 則雄	0
H17.4.24(日)	奥野 淳児	3
H17.4.29(金)	川瀬 裕司	12
H17.4.30(土)	藍澤 正宏	7
H17.5.14(土)	村田 明久	0
H17.5.29(日)	柳 研介	2
H17.6.11(土)	乃一 哲久	3
H17.6.25(土)	村田 明久	8
H17.6.26(日)	立川 浩之	6
H17.7.9(土)	奥野 淳児	5
H17.7.23(土)	柳 研介	16
H17.7.24(日)	村田 明久	22
H17.8.6(土)	川瀬 裕司	14
H17.8.6(土)	川瀬 裕司	4
H17.8.19(金)	藍澤 正宏	10
H17.9.3(土)	立川 浩之	15
H18.3.21(火)	菊地 則雄	7
H18.3.30(木)	菊地 則雄	0

● バックヤードツアー

実施日	担当	参加者数
H17.11.20(日)	柳 研介	15
H17.12.4(日)	乃一 哲久	5
H18.1.22(日)	奥野 淳児	20
H18.2.19(日)	立川 浩之	6

アンケートの結果と参加者の声



- ・見なれているものが本当は何なのかよくわかりました。(フィールドトリップ40代男性)
- ・まさに"生きた学習"でした。たのしかったです。(フィールドトリップ、30代女性)
- ・博物館が身近なものになった。(バックヤードツアー、40代女性)

(2) 学校連携

● 海の環境学習研修会

海の環境学習研修会は、海の生きものや自然を対象とした校外学習を企画実践するための基礎的知識を学校の先生方に習得してもらうことを目的に、毎年夏休みに開催しています。本年度は、千葉県総合教育センターとの共催事業「海の生物と環境講座」として、8月4日（入門編）、5日（応用編）、24日（発展編）の3日間の日程で行いました。入門編では、磯での生きもの観察、観察会実施時の留意点などに関するグループワークなど、応用編では、磯の生きものの分布図づくりと発表会など、発展編では、プランクトンの採集道具の製作とプランクトン採集、観察などを行いました。



参加者の声

- ・充実した研修でした。来年も……と思いますが、そうもいかないようですので、今年度参加できなかった職員に情報提供したいと思います。
- ・お世話になりました。センター研修の中で一番有意義でした。
- ・専門家の先生方の詳しい話が聞けて良かったです。
- ・どの講習内容も自分にとって新鮮で、授業の中で取り入れていきたい気持ちになりました。
- ・体験を通して学習できたことがよかった。実験、実習がある講座にしておいてほしい。

● 野外実習授業

野外実習授業は、学校教員と当館研究員が共同で磯観察などの校外学習を実施するものです。本年度は、38件の申込がありましたが、郁文小学校の共同授業（p.1 参照）、長生高校とのサイエンスパートナーシップ（p.11参照）以外に、11件（内1件は天候不順のため中止）を受け入れ、磯での生きもの観察や、質問回答、室内での各種授業などを行いました。

野外実習授業実施一覧

実施日	学 校 名	参加者数
H17.5.11(水)	市原市立加茂中学校	67
H17.5.12(木)	勝浦市立豊浜小学校	31
H17.5.25(水)	豊島区立竹岡健康学園	25
H17.5.26(木)	岬町立長者小学校	72
H17.6.7(火)	郁文・千町・及川小学校合同	147
H17.6.8(水)	千葉市立朝日ヶ丘小学校	81
H17.6.23(木)	天津養護学校	20
H17.6.30(木)	岬町立太東小学校	63
H17.7.7(木)	興津小学校	49
H17.10.15(土)	花園中学校	21
雨天中止	小見川町立西小学校	

●勝浦市立郁文小学校との連携

1ページをご覧ください

●県立長生高校とのサイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）の連携



SPPとは、実験・観察・体験を通して科学技術の本質に接し、その発展に携わる研究者の姿に触れる機会を充実することにより、「科学技術創造立国」を目指す我が国の次代を担う青少年の育成を図る事業で、文部科学省が推進している「科学技術・理科大好きプラン」の一環として実施されています。今回のSPPは、長生高校理数科2年生の生物選択者32名を対象に実施しました。

6月16日には長生高校で、「房総半島周辺海域の特徴と海洋生物について」というタイトルで講義を行い、千葉県の手で見られる生きものの特徴や自然環境などについて解説をしました。

7月21日～23日には、海の手博物館前の磯で8つの班が班別課題研究に取り組むとともに、室内ではムラサキウニの発生実験も行いました。最終日には発表会が行われ、各班の代表者が写真やイラストを用いて研究成果を発表しました。

●展示解説・質問対応

野外実習授業以外にも、随時、研究員が展示解説やバックヤードの案内などを行っています。今年度は、12件359名を受け入れました。

研究員による学校団体を対象とした展示解説

実施日	学校名	参加者数
H17.4.3(日)	東京情報大学	42
H17.5.20(金)	長南中学校	37
H17.6.2(木)	大原町立東小学校	30
H17.6.2(木)	総野小学校	41
H17.6.23(木)	睦沢町立瑞沢小学校	14
H17.7.12(火)	西条小学校	32
H17.10.13(木)	勝浦小学校	53
H17.11.2(水)	小湊小学校	19
H17.11.11(金)	勝浦若潮高校	10
H17.12.1(木)	北条小学校	18
H18.2.16(木)	勝浦若潮高校	21
H18.2.28(火)	御宿小学校	42

(3) 団体対応

本年度は、学校の教員研修や公民館、教育委員会、各種サークルなどを対象とした磯の生きもの観察などの団体対象フィールドトリップを、合計を一般団体を対象とした野外観察等を計9件実施しました。

各種団体を対象としたフィールドトリップ

実施日	団体名	参加者数
H17.5.25(木)	千葉県生涯大学校外房学園	49
H17.6.12(日)	安房生物同好会	32
H17.6.22(木)	千葉県教育研究会理科部会生物分科会海洋生物研究班	5
H17.6.25(土)	千葉サイエンスの会	32
H17.7.10(日)	千葉市青少年育成相談	74
H17.8.8(月)	成東町教育委員会いきいき体験教室実行委員会	32
H17.8.18(木)	江東区理科教員研修	29
H17.8.22(月)	岬町環境教育部会	5
H17.9.17(土)	勝浦市教育委員会「磯の生きもの探訪」	32

(4) 広 報

● 刊行物

本誌「いそび通信」をはじめ、今年度発行した当館の刊行物を下の表にまとめました。



タ イ ト ル
収蔵資料展「イッカク」リーフレット
展示解説シート23「危険な生きもの-ガンガゼ-」
マリンサイエンスギャラリー「ハゼの世界」ポスター
マリンサイエンスギャラリー「ハゼの世界」リーフレット
マリンサイエンスギャラリー「ハゼの世界」展示図録
マリンサイエンスギャラリーワークシート「シルエット・クイズ」
海の生きもの観察ノート5「ウミウシを観察しよう」
平成18年度開催行事のご案内
分館海の博物館ニュースレター「いそび通信No.7」(平成17年度版)

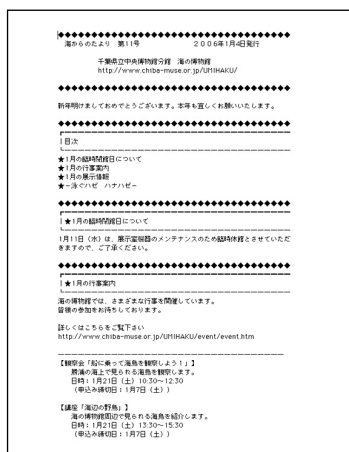
● ホームページ

海の博物館のホームページでは、博物館の施設や展示内容介はもちろん、年間の行事予定、博物館の収蔵資料や調査研究活動のご紹介など、さまざまな情報を発信しています。今年度は、約11万3千件のアクセスがありました。ぜひ一度お立ち寄り下さい。

海の博物館のホームページ

<http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>

● メールマガジン



平成17年3月から、海の博物館メールマガジン「海からのたより」が創刊されました。毎月初めに刊行され、平成17年度までに13号が配信されました。展示の更新情報や行事のご案内など、海の博物館の最新情報や、海の生きものに関する話題などをお届けしていきます。購読は無料です。

お申し込み・解除、お問い合わせはこちらにご連絡下さい。

umihaku@chiba-muse.or.jp

(5) 館外での講演等

海の博物館研究員は、他機関からの依頼を受けて当館以外の場所でも講演や実技指導を行うことがあります。今年度は、下表のような活動を行いました。

実 施 日	団 体 名	内 容	参加人数	担 当
H17. 5. 8	浦安市郷土博物館	干潟の甲殻類(エビ・カニ・ヤドカリ)観察会	8	奥野淳児
H17. 6.24	NPO法人 千葉自然学校	体験プログラム「海藻アート」講習会	40	菊地則雄
H17. 7.23	千葉県立安房博物館	館山湾クルーズ	23	藍澤正宏、乃一哲久
H17.12. 9	千葉県立安房博物館水産教育研修会	自然史博物館の収集活動と標本学	27	藍澤正宏
H17.12.17	千葉県立博物館	千葉学講座「ハゼの世界」	100	藍澤正宏
H18. 2. 4	特定非営利活動法人 盤州里海の会	多摩川河口～アマノリあるある探検隊	100	菊地則雄
H18. 3. 4	浦安市郷土博物館	海藻観察会	30	菊地則雄

(6) 報道関係対応一覧

取材日	取材元	誌名・番組名	内 容	掲載・放送	当館担当者
H17.4.13	Bay FM	Ever Blue Sea of Love	博物館の概要や行事	H17.4.24放送	川瀬 裕司
H17.4.17	NHK	NHKほっとモーニング	イソギンチャクの種類と食文化	H17.4.21放送	柳 研介
H17.5.25	千葉日報	千葉日報	郁文小学校との連携活動	H17.6.11掲載	村田 明久
H17.5.27	熊本日日新聞	熊本日日新聞	熊本県河浦町のアサクサノリ		菊地 則雄
H17.6.15	日本テレビ	伊東家の食卓	エビの各部位の名称について		柳 研介
H17.6.24	TBSテレビ	どうぶつ奇想天外!	魚の写真提供	H17.8.28放送	乃一 哲久
H17.7.17	千葉テレビ	ウィークリー千葉県	収蔵資料展の概要	H17.7.23放送	藍澤 正宏
H17.7.21	千葉テレビ	情報大ステーション	サイエンスパートナーシッププログラム	H17.9.24放送	川瀬 裕司
H17.8.5	産経新聞	産経新聞	収蔵資料展の概要		柳 研介
H17.8.15	読売新聞	読売新聞	収蔵資料展の概要	H17.8.19掲載	藍澤 正宏
H17.8.19	千葉日報	千葉日報	収蔵資料展の概要	H17.8.25掲載	藍澤 正宏
H17.10.19	NHK		アサクサノリの生育地と特徴		菊地 則雄
H17.12.15	NHK	おはよう日本	ハバノリの特徴		菊地 則雄
H17.12.15	産経新聞	産経新聞	郁文小学校との連携活動	H17.12.16掲載	柳 研介
H17.12.15	千葉日報	千葉日報	郁文小学校との連携活動	H17.12.16掲載	柳 研介
H17.12.17	NHK		アシナガツノガニの行動		奥野 淳児
H18.1.25	NHK		多摩川河口のアマノリ		菊地 則雄
H18.2.1	読売新聞	読売新聞	多摩川河口のアマノリ	H18.2.2掲載	菊地 則雄
H18.2.2	NHK		多摩川河口のアサクサノリ	H18.2.2放送	菊地 則雄
H18.2.4	NHK、フジテレビ、 テレビ朝日他		多摩川河口のアサクサノリ	H18.2.6放送	菊地 則雄
H18.2.7	千葉日報	千葉日報	多摩川河口のアサクサノリ	H18.2.8掲載	菊地 則雄
H18.2.9	勝浦市広報係	広報かつうら	多摩川河口のアサクサノリ	H18.3.3掲載	菊地 則雄
H18.2.9	千葉テレビ	朝まるJVST	マリンサイエンスギャラリーの資料提供	H18.2.24放送	奥野 淳児
H18.2.25	NHK	いっと6けん	マリンサイエンスギャラリーの展示構成	H18.2.27放送	藍澤 正宏
H18.2.25	産経新聞	産経新聞	マリンサイエンスギャラリーの展示構成		藍澤 正宏
H18.3.2	千葉テレビ	ニュース	マリンサイエンスギャラリーの展示構成	H18.3.2放送	藍澤 正宏
H18.3.26	千葉日報	千葉日報	郁文小学校との共同授業発表会		柳 研介
H18.3.26	勝浦市広報係	広報かつうら	郁文小学校との共同授業発表会		柳 研介

(7) その他の海の博物館関連記事

取材日	取材元	誌 名	内 容	掲載・放送	当館担当者
H17.4.27	(財)千葉県産業振興センター	企業情報	展示室の概要	H17年7月号	川瀬 裕司
H17.5.11	ちばこープ	はらっぱ	展示概要と磯の自然	H17年8月号	川瀬 裕司
H17.6.1	千葉銀行	ラウンジ	展示概要と夏休み中の行事	H17年夏号	川瀬 裕司
H17.6.15	角川SSコミュニケーションズ	毎日が発見	展示室の概要	H17年7月28日号	村田 明久
H17.6.28	昭文社	マップルマガジン千葉・房総06	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H17.7.15	(株)翔ブラザーズ	千葉ウォーカー	行事案内	H17年17号	川瀬 裕司
H17.8.8	千葉県観光協会	Stay and Enjoy	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H17.9.20	(株)JTBパブリッシング	るるぶ千葉・房総06年度版	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H17.10.1	メディア・リサーチ・センター(株)	雑誌新聞総カタログ2006年版	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H17.10.13	寒灯舎	住宅情報ほしりリゾート	千葉県海の海の特徴	H18年1月号	村田 明久
H17.11.1	成美堂出版	関東周辺大満足の家族旅行06～07	博物館の基本情報	2006～2007年版	川瀬 裕司
H17.11.9	人文社	わくわく博物館	博物館の基本情報	2006年3月刊	川瀬 裕司
H17.11.14	(株)JTBパブリッシング	ドライブ千葉・房総・茨城06	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H17.12.2	日経ナショナルジオグラフィック社	ナショナルジオグラフィック日本版	企画展の紹介	H18年3月号	川瀬 裕司
H17.12.22	(株)ぴあ	テーマパーク&レジャーランド スーパーカタログ2006	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H17.12.26	メイツ出版(株)	2006年版子どもとでかける 千葉県 あそび場ガイド	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H18.1.10	東京湾フェリー(株)	南房総・三浦	博物館の基本情報	平成18年度版	川瀬 裕司
H18.1.10	(株)旅行出版社	全国版宿泊表	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H18.1.12	(株)ぴあ	千葉県スーパーカタログ2006	博物館の基本情報	2006年版	川瀬 裕司
H18.1.17	実業之日本社	ガルビィ	展示概要と磯の自然	H18年3月号	川瀬 裕司
H18.1.20	海潮社	千葉魚〜きんぐ	メバルとウミタナゴの写真提供	第29号	川瀬 裕司

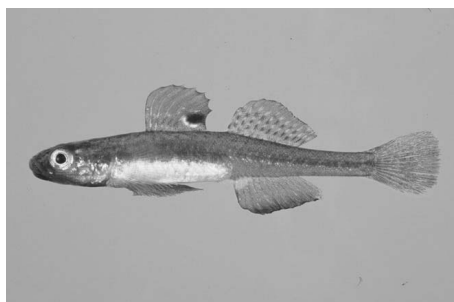
(8) 電子情報対応

取材日	取材元	誌 名・番組名	内 容	掲載・放送	当館担当者
H17.6.22	千葉県報道監	県ホームページ	施設の概要と周辺の自然	H17.7.6～20	柳 研介
H17.6.22	千葉県報道監	県メールマガジン	施設の概要と周辺の自然	H17.7.6発信	柳 研介
H17.9.8	JTBパブリッシング	るるぶ.com	博物館の利用案内	H17.11.1～	川瀬 裕司
H17.11.5	千葉県総合教育センター	マルチメディア素材データ集	展示室の概要	H18.4.1～	川瀬 裕司
H18.1.5	海はたるネット事務局	海はたるネット	施設の概要と周辺の自然	H18.2.1～28	村田 明久

3. 資料収集活動

海の博物館では、千葉県周辺海域を中心に、海の自然誌に関する資料を収集しています。これらの資料は、県民共有の財産として保管、管理すると共に、展示や教育普及活動など、各種の博物館活動に活用しています。

(1) 職員による資料収集



海の博物館では、勝浦市を中心とする県内各地で、毎年、精力的に海の自然誌に関する資料の収集活動を行っています。また、千葉県産資料の特徴を明らかにするために、県外地域においても、比較資料の収集を行っています。

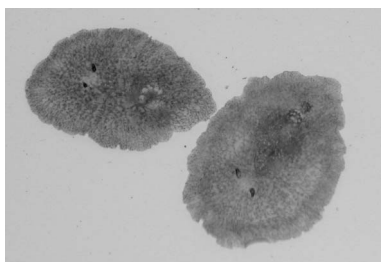


県外での資料収集は、平成13～15年度には、暖海性の資料を得るために東京都伊豆大島において行いました。そして、平成16年度からは、寒海性の資料を得るために宮城県志津川湾沿岸において行っています。

本年度の志津川湾での資料収集は、6月5～9日の間に行いました。今年は、藍澤、乃一、川瀬の3名の研究員が主に魚類を目的とした収集活動を行い、ニクハゼ（写真上）、ムツムシャギンポ（写真下）など、46種1792個体の資料を得ることができました。

収集資料紹介

ヒラムシのなかま



「何これ～」…潮だまりの観察会では、毎回参加者からこのような声が聞こえます。多くの場合、ヒラムシのなかまを見つけたときに発せられる驚きです。ヒラムシとは扁形動物に含まれ、紙のように薄い体をしている生きものです。潮だまりでは、石をおこすとその裏側に付いており、意外なスピードで暗いほうへ移動するため、生きものを探していると、いやでも目についてしまうのでしょう。このように、観察会で注目度の高い生きものながら、展示室ではヒラムシについての紹介がほとんどありません。そこで、この奇妙な生きものを展示するための標本や文献の収集を始めました。近い将来、展示室でヒラムシをより詳しく知ることができるよう、検討を重ねていく予定です。

サンゴ類



登録されたイシサンゴ類の標本

当館研究員の立川は、平成17年11月に行われた東京大学海洋研究所の研究船淡青丸の調査航海に参加し、四国沖・紀伊水道・熊野灘海域での深海生物の調査を行ってきました。この調査航海で、立川担当のイシサンゴ類は約73種が採集され、215ロット約2500個体の標本を海の博物館の資料として登録することができました。

(2) 提供資料の受入

海の博物館の資料収集活動には、平成11年の開館以来毎年、多くの方々が協力して下さっています。本年度も、地元勝浦で漁業を営まれている方を中心に、13名の方々が23件45点の資料を提供して下さいました。内訳は、甲殻類が22点、魚類が8点、海綿類が4点、刺胞動物が4点、貝類が3点、その他の生物が4点です。また、4名1団体の方々からは、16点数百冊に及ぶ図書ならびに学術雑誌のバックナンバーを提供して頂きました。

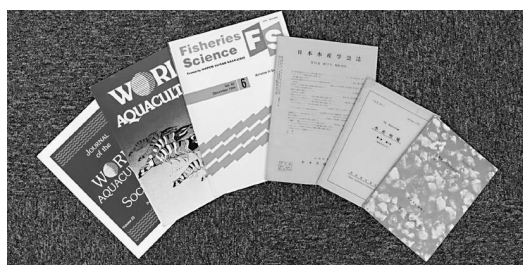
提供資料の紹介

ヨロイタチウオ



写真の魚は、アシロ目のヨロイタチウオです。鴨川市在住の金高武雄さんから、「珍しい魚が獲れた」と、同市沖で漁獲されたものを提供して頂きました。この魚は、南日本から東シナ海に多く生息しており、関東以北の海域では数が少ないようです。当館でもこれまで資料がなかった魚で、写真を撮った後、早速標本にさせて頂きました。

学術雑誌バックナンバー



学術雑誌は、それぞれの研究分野における最新の知見を収録した書物で、研究活動を行う上で欠かすことができない資料です。当館でも機会ある毎に、館の活動に関連する分野の学術雑誌の入手に努めています。本年度は、横浜市在住の菅生裕さんから、水産関係の6種類の学術雑誌のバックナンバー、数百冊を提供して頂きました。

(3) 資料登録点数

平成17年度は、新たに4,232点の資料を登録しました。これによって開館以来の登録点数は、48,073点となりました。(平成18年3月31日現在)

資料名	本年度	累計	資料名	本年度	累計	資料名	本年度	累計
海綿動物	19	257	甲殻類	193	2,012	種子植物	7	63
刺胞動物	421	4,302	棘皮動物	119	1,391	写真資料		10,754
環形動物		2,030	その他の無脊椎動物	31	239	動画資料		920
貝類	1,045	6,304	魚類	2,306	12,190	図書資料	25	1,477
頭足類		230	藻類	66	5,904	合計	4,232	48,073

(4) 資料の貸し出し

海の博物館では、登録管理している資料の貸し出しも行っています。本年度は、海外を含む五つの機関から合計6件39点の貸し出し依頼があり、その要望に応じました。貸し出し先と貸し出し資料は以下の通りです。クイーンズランド博物館（オーストラリア）に甲殻類標本を2点、カタニア大学（イタリア）に環形動物標本を1点、北海道大学総合博物館に藻類標本を31点、高知大学理学部に魚類標本を4点、千葉大学小湊臨海実験所に貝類標本を1点。

4. 調査研究活動

海の博物館では、研究員の専門性を活かして、海の生きものに関する調査研究活動を積極的に行い、得られた成果を学術論文などで公表するとともに、展示、教育普及活動に広く活用しています。

(1) 研究員による調査研究

海の博物館では、房総半島周辺海域の海洋生物相とその特徴を明らかにすることを目的に各研究員が分担して行う「総合分野」の研究と、各研究員の専門分野をより深く研究する「詳細分野」の研究の2本立ての調査研究活動を行っています。総合分野研究では魚類班、無脊椎動物班、藻類班の3班で、昨年度からは、特に千葉県北部の親潮影響域に重点を置いた調査研究を行っています。詳細分野研究は、各研究員が以下のようなテーマで行っています。

藍澤正宏「ハゼ科ミミズハゼ属魚類の分類学的研究」

乃一哲久「沿岸域に出現する仔稚魚の形態と生態に関する研究」

川瀬裕司「モンガラカワハギ上科魚類の繁殖行動とその進化に関する研究」

立川浩之「日本産イシサンゴ類の分類・生物地理に関する研究」

菊地則雄「原始紅藻亜綱植物の分類学的、生態学的研究」

奥野淳兒「日本産共生性コエビ類の分類学的研究」

柳 研介「イソギンチャク類の分類学的研究」

村田明久「フジツボ類の繁殖生態」

(2) 他機関等との研究交流、外部助成金等

海の博物館独自で行う調査研究の他に、他機関の施設を利用したり、専門の異なる他機関の研究者と共同で行う研究や、外部助成金を得て行う研究も積極的に推進しています。平成17年度は下のような機関との共同研究や外部助成金を得ての研究を行いました。

志津川町自然環境活用センターとの共同調査

研究課題：志津川湾生物相調査、沿岸性魚類

当館の研究分担者：藍澤正宏・乃一哲久・川瀬裕司

広島大学生物生産学部 実習船豊潮丸 平成17年度第二次航海

研究課題：南西諸島におけるプランクトン・ベントス・ネクトンの分布調査

当館の研究分担者：立川浩之

東京大学海洋研究所／(独)海洋研究開発機構 研究船淡青丸 KT-05-30航海

研究課題：深海性底性生物の進化古生物学的研究

当館の研究分担者：立川浩之

文部科学省共同利用研究 独立行政法人海洋研究開発機構研究船白鳳丸共同利用

研究課題：琉球海溝付近・沖縄背弧海盆の深海底生生物群集の生態学的・系統分類学的琉球研究および表層堆積物の圧密続成過程の研究

当館の研究分担者：柳 研介

独立行政法人国立科学博物館プロジェクト研究

研究課題：相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究

当館の研究分担者：奥野淳兒、柳 研介

大韓民国国立麗水大学校大学院水産科学科における理学博士学位の取得

論文名：Studies on the morphology and life history of Bangiophycidae (Rhodophyta) from Japan

研究者：菊地則雄

日本学術振興会科学研究費（基盤研究C）

研究課題：性転換する魚類の社会構造と内分泌特性の進化に関する研究

研究代表者：須之部友基 当館の研究分担者：川瀬裕司

藤原ナチュラルヒストリー振興財団第7回学術研究助成

研究課題：潮間帯および浅海域におけるイソギンチャク類の分類学的研究

研究代表者：柳 研介

(3) 研究成果公表一覧

学術論文、学術書

堀江義一

堀江義一. 2005. 5. 自然毒 カビ毒. In 黒川顕(編), カビ毒、中毒症のすべて, pp.272-277. 永井書店, 大阪.

藍澤正宏

藍澤正宏(分担執筆). 2005. 第5章, 海や海辺の動物. In 千葉県史料研究財団(編), 千葉県の自然誌 別編3, 千葉県動物写真集, pp.267-447. 千葉県, 千葉.

川瀬裕司

Kawase, H. 2005. Spawning behavior of the pygmy leatherjacket *Brachaluteres jacksonianus* (Monacanthidae) in southeastern Australia. Ichthyol. Res. 52: 194-197.

立川浩之

浅田正彦・立川浩之・高山順子・村田明久・前田喜四雄. 2005. 千葉県におけるヒナコウモリの初記録. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告, 8(2): 49-51.

Tachikawa, H. 2005. Azooxanthellate Scleractinia (Hexacorallia, Anthozoa, Cnidaria) collected from Otsuki, Kochi Prefecture, Japan. Kuroshio Biosphere, 2: 1-27, 13 pls.

立川浩之(分担執筆). 2005. 第5章, 海や海辺の動物. In 千葉県史料研究財団(編), 千葉県の自然誌 別編3, 千葉県動物写真集, pp.267-447. 千葉県, 千葉.

菊地則雄

Kikuchi, N. and J.-A. Shin. 2005. Morphology and life history of *Stylonema cornu-cervi* Reinsch (Goniotracheales, Rhodophyta) from Japan. Algae 20(1): 37-42.

Niwa, K., N. Kikuchi and Y. Aruga. 2005. Morphological and molecular analysis of the endangered species *Porphyra tenera* (Bangiales, Rhodophyta). J. Phycol. 41: 294-304.

奥野淳児

Okuno, J. 2005. New host record, coloration in life, and range extension of *Periclimenes adularans* Bruce, 2003 (Decapoda, Palaemonidae) based on additional specimens from Japan and Taiwan. Crustaceana, 78(5): 591-598.

Okuno, J. and M. Takeda. 2006. Validity of *Palapedia truncatiformis* (Sakai, 1974) (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Xanthidae). Bull. Nat. Sci. Mus. Ser. A, (2001), 32(1): 15-22.

Osawa, M., Y. Fujita and J. Okuno. 2006. Two new species of *Pagurixus* (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae) from submarine caves of the Ryukyu Islands, southwestern Japan. Zootaxa, (1148): 27-45.

柳 研介

柳 研介(分担執筆). 2005. 第5章, 海や海辺の動物. In 千葉県史料研究財団(編), 千葉県の自然誌 別編3, 千葉県動物写真集, pp.267-447. 千葉県, 千葉.

Fukunaga, Y., M. Kurahashi, K. Tanaka, K. Yanagi, A. Yokota and S. Harayama. 2006. *Pseudovibrio ascidiaceicola* sp. nov., isolated from ascidians (sea squirts). International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, 56: 343-347.

村田明久

浅田正彦・立川浩之・高山順子・村田明久・前田喜四雄. 2005. 千葉県におけるヒナコウモリの初記録. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告, 8(2): 49-51.

教育普及業績

藍澤正宏

藍澤正宏. 2005. 磯に棲むハゼ アゴハゼとドロメ. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第3号.

藍澤正宏. 2005. 海からのたより「講座のお知らせ」. 中央博物館だより. 61: 8.

藍澤正宏. 2005. 海博だより 一泳ぐハゼ ハナハゼ. 友の会ニュース(千葉県立中央博物館友の会), (56): 5.

藍澤正宏. 2006. 泳ぐハゼ ハナハゼ. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第11号.

藍澤正宏. 2006. 海からのたより「マリンサイエンスギャラリー開催中」. 中央博物館だより. 62: 8.

乃一哲久

乃一哲久. 2005. モリアオガエル. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第4号.

乃一哲久. 2006. ニホンザル. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第12号.

川瀬裕司

川瀬裕司. 2005. 初夏の風物詩ークサフグの産卵. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第5号.

川瀬裕司. 2006. 多産の母・カサゴ. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第13号.

立川浩之

立川浩之. 2005. 危険な生きものーガンガゼ. 千葉県立中央博物館分館海の博物館展示解説シート23, 1 p.

立川浩之. 2006. 千葉県立中央博物館分館海の博物館を利用した展開例. In 千葉県総合教育センター(編), 地域の教育資源を生かした理科教育について, pp. 46-49.

東京湾のアサクサノリ



東京湾では絶滅したと考えられていた絶滅危惧種紅藻アサクサノリが、東京国際空港のすぐ隣の多摩川河口の干潟に生育していることが、当館研究員菊地ほかの調査で明らかになり、マスコミでも報道されました。おそらく、昔の良好な環境が保たれていた場所であったため、アサクサノリが生き残っていたものと思われます。今後、周辺の開発によって絶滅してしまう恐れがあり、継続的に生育調査を行っていきたいと考えています。

立川浩之. 2006. 海の生きもの観察ノート5. ウミウシを観察しよう. 32 pp. 千葉県立中央博物館分館海の博物館.
立川浩之. 2005. 広島大学練習船「豊潮丸」乗船調査の報告. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第6号.

菊地則雄

菊地則雄. 2005. 夏休みの磯と9月の磯. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第7号.

奥野淳児

奥野淳児. 2005. 台湾の大学でエビ類標本を調査. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第8号.

奥野淳児(監修). 2006. 育てて、しらべる日本の生きものずかん, 9. ヤドカリ. 39 pp. 集英社, 東京.

奥野淳児. 2006. 手軽に楽しめるヤドカリの観察. 月刊ダイビングワールド, (368): 109.

柳 研介

柳 研介. 2005. 海博だよりーイソギンチャク、新種発表も大変ー. 友の会ニュース(千葉県立中央博物館友の会), (54): 6.

柳 研介. 2005. 海からのたより「小さな海の住人たち〜今夏の収集資料から〜」. 中央博物館だより. 61: 8.

柳 研介. 2005. イソギンチャク標本を求めてドイツまで. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第10号.

柳 研介. 2006. 水中に咲く花-イソギンチャクの世界-. 千葉県立博物館文化セミナー「千葉学講座」報告集第4集-(千葉県立美術館・博物館協議会). pp. 16-18.

柳 研介. 2006. 平成17年度マリンサイエンスギャラリーワークシート「シルエットクイズ」, 千葉県立中央博物館分館海の博物館, 1p.

村田明久

村田明久. 2005. 磯の生物観察. 理科教育, 48(7): 20-23.

村田明久. 2005. 海博だより-ダーウィンとフジツボ-. 友の会ニュース(千葉県立中央博物館友の会), (55): 6.

村田明久. 2005. 磯観察に出かけよう! 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第2号.

村田明久. 2005. 「動かない」動物たち. 海の博物館メールマガジン「海からのたより」第9号.

全職員分担執筆. 2006. 分館海の博物館ニュースレターいそび通信 (7), 26 pp. (本誌)

学会発表

堀江義一

矢口貴志・堀江義一・田中玲子・松澤哲宏・西村和子, 2005.4. 病原性 *Aspergillus* section *Fumigati* の分類について.

日本菌学会関東支部年次大会. 玉川大学, 町田市.

松澤哲宏・矢口貴志・堀江義一・西村和子. 2005.6. *Emericella* 属の分子系統解析と子のう胞子の形態について. 第26回関東医真菌懇話会. 千代田ファーストビル西館, 東京.

Yaguchi, T., Y. Horie, R. Tanaka, T. Matsuzawa and K. Nishimura. 2005.7. Classification of pathogenic *Aspergillus* section *Fumigati*, The Mycological Society of America & The Mycological Society of Japan Joint Meeting 2005. The University of Hawaii, Hilo, Hawaii, USA.

矢口貴志・伊藤純子・堀江義一・田中玲子・松澤哲宏・西村和子. 2005.10. 病原性 *Aspergillus* section *Fumigati* の分類と性状. 第49回日本医真菌学会総会. 幕張プリンスホテル, 千葉市.

矢口貴志・堀江義一・松澤哲宏・西村和子. 2005.10. *Neosartorya* および *Aspergillus* section *Fumigati* に分類される種の分子系統について. 第49回日本医真菌学会総会. 幕張プリンスホテル, 千葉市.

松澤哲宏・矢口貴志・堀江義一・西村和子. 2005.10. *Emericella* 属の分子系統解析と子のう胞子の形態について. 第49回日本医真菌学会総会. 幕張プリンスホテル, 千葉市.

矢口貴志・堀江義一・田中玲子・西村和子. 2005.10. *Pseudallescheria boydii* の分類について. 第49回日本医真菌学会総会. 幕張プリンスホテル, 千葉市.

堀江義一・矢口貴志・松澤哲宏・田中玲子・西村和子. 2006.1. なぜ0011株だけがfumitremorugin Aを生産したか、fumitremorugin A生産菌とその関連菌の分子系統解析と分類学的考察. 第59回マイコトキシン研究会学術講演会. 文部科学省研究交流センター, つくば市.

乃一哲久

乃一哲久. 2005.12. タイワンアイノコイワシ、ミズスル仔稚魚の形態と同科他種との識別について. 平成17年度稚魚研究会. 東海大学海洋学部, 静岡市.

川瀬裕司

Kawase, H. 2005.5. Diversity of reproductive ecology on the monacanthid fishes. 7th Indo-Pacific Fish Conference. Howard international House, Taipei, Taiwan.

川瀬裕司. 2005.9. *Scobinichthys granulatus* (カワハギ科)雄間競争となわばり訪問型複婚の配偶システム. 日本魚類学会年会. 東北大学, 仙台市.

川瀬裕司. 2006.2. 温帯の海・シドニーに生息する魚類の繁殖行動. 第17回魚類生態研究会. 広島青少年スポーツセンター, 広島県三原市.

川瀬裕司. 2006.3. 固有種の宝庫・シドニーの魚類相と繁殖生

ドイツの博物館での標本調査

当館研究員の柳は、財団法人藤原ナチュラリヒストリー振興財団の研究助成を受け、去る10月18日から10月30日にかけて、ドイツのミュンヘンにある、ミュンヘン動物学博物館とベルリンにあるフンボルト大学自然博物館を訪問しました。これらの博物館では、主にフランク・ドフラインによって収集された日本産イソギンチャク類標本を調査しました。これらの標本は、千葉県近海を中心としたイソギンチャク類の名前を調べるのに、非常に重要な標本群であり、今後、一部持ち帰った体の組織から試料を作成し、詳細な形態を観察することになっています。



フンボルト大学自然史博物館の研究棟入口にて

態. 第6回東日本魚類生態研究会. 国際基督教大学, 東京.

菊地則雄

Kwak, J.-U., J.-A. Choi, U. Lee, Y. S. Yun, N. Kikuchi, K. Kuwano, I. K. Chung, S. M. Boo and J.-A. Shin. 2005.11. A morphometrical study of cultivated *Laminaria japonica* (Laminariales, Phaeophyta) in Goheung, Korea. The 10th International Symposium on the Efficient Application and Preservation of Marine Biological Resources. Yeosu, Korea.

Lee, E., J. H. Woo, J. M. Kang, J. H. Kim, H. S. Shin, J.-H. Park, N. Kikuchi, K. Kuwano, and J.-A. Shin. 2005.11. Growth analysis of cultivated *Undaria pinnatifida* (Laminariales, Phaeophyta). The 10th International Symposium on the Efficient Application and Preservation of Marine Biological Resources. Yeosu, Korea.

川内野善治・菊地則雄・吉田忠生. 2006.1. 長崎県内における絶滅危惧種紅藻アサクサノリの生育地. 長崎県生物学会第35回大会, 西海パールシーリゾート, 佐世保市.

菊地則雄・新井章吾・吉田吾郎・申宗岩. 2006.3. 紅藻アカネグモアマノリ（仮称）の室内培養における生活史. 日本藻類学会第30回大会, 鹿児島大学, 鹿児島市.

奥野淳兒

奥野淳兒. 2006.2. 千葉県産ゴイシガニ類(甲殻上綱: 十脚目: オウシガニ科). 千葉県生物学会2006年度会員研究発表会, 千葉県立中央博物館, 千葉市.

柳 研介

並河洋・柳 研介・大沼久之・柳場潔. 2005.5.11. 伊豆大島浅海にて採集された *Candelabrum* 属のヒドロ虫類について(予報). 日本動物分類学会第41回大会, 徳島県立博物館, 徳島市.

柳 研介. 2005.11. ドフラインによって採集された本邦産イソギンチャク類について. 第一回日本刺胞動物等談話会, 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所, 和歌山.

漂着したクジラへの対応

3月上旬に一宮町東浪見海岸に多くのカズハゴンドウが座礁しました。千葉県下での鯨類の集団座礁の例は初めてですが、単独個体の座礁や死亡個体の漂着例は少なくありません。鯨類の座礁や漂着を発見した場合はどのようにすればよいのでしょうか。鯨類を管轄する農林水産庁からの通達では座礁した鯨類は速やかに海に戻すこと、また死亡しているものについては焼却、埋設などの速やかに処理を行うことが指導されています。これらの鯨類を試験研究等の学術目的（社会教育目的のため標本も含む）に利用する場合には、農林水産大臣もしくは水産庁資源管理部長への届出を行い、許可を得る事が必要となっています。当館の講座や企画展などに利用している鯨類の標本もこの届出を行って収集したものです。

(4) 館外活動

海の博物館の研究員は、その専門性を活かして他機関からの依頼により、外部委員を務めたり、講義、講演などを行っています。17年度は次のような依頼に対応しました。

堀江義一

新疆医科大学客員教授（中国新ウイグル自治区、ウルムチ市）
吟爾浜医科大学客員教授（中国黒龍江省、ハルビン市）
千葉大学真菌医学研究センター非常勤講師
共立女子短期大学看護学科非常勤講師
千葉県環境学習アドバイザー

日本菌学会評議員

2005.11.16. 千葉県環境学習アドバイザー講演「地球環境問題」 八千代市教育研究会中学校理科部会. 八千代市立郷土博物館, 八千代市.

2006.1.26. 千葉県環境学習アドバイザー講演「環境問題と食糧」 印西市民アカデミー. 印西市立中央公民館, 印西市.

藍澤正宏

千葉県史自然誌系動物部会執筆委員会委員

日本動物分類学会選挙管理委員

乃一哲久

2005.11.14-15. 平成17年度卵稚仔同定研修会講師「ニシン目魚類仔稚魚」 独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所, 横浜市.

川瀬裕司

日本魚類学会電子情報委員会委員長

立川浩之

千葉県史自然誌系動物部会執筆委員会委員

千葉県総合教育センター「地域の教育資源を生かした理科教育について」調査研究委員

刺胞動物等談話会事務局

菊地則雄

千葉県史自然誌系植物部会執筆委員会委員

環境省絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会植物Ⅱ分科会(藻類グループ)調査協力員

奥野淳兒

独立行政法人国立科学博物館プロジェクト研究, 相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究, 外部委員.

柳 研介

日本動物分類学会選挙管理委員

日本刺胞動物等談話会事務局

独立行政法人国立科学博物館プロジェクト研究, 相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究, 外部委員.

2006.3.9-10. 国立遺伝学研究所研究集会「多細胞体制の起源, 形態進化, 系統進化について考える」講演「イソギンチャク類の形態・繁殖生態の進化的位置付けについて」 国立遺伝学研究所, 三島市.

(1) 平成17年度の利用状況

本年度の当館の利用状況は下表の通りです。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
閉館日数	26	26	26	27	31	26	26	26	22	25	24	27	312
入館者数	4,845	9,693	4,966	8,224	19,090	5,160	5,597	4,263	2,918	4,873	4,500	8,232	82,361
個 人	4,684	8,509	3,197	7,188	18,516	4,563	4,006	3,853	2,709	4,846	4,284	8,030	74,385
団 体	161	1,184	1,769	1,036	574	597	1,591	410	209	27	216	202	7,976
学校団体件数	5	21	31	25	33	10	37	15	7	1	7	6	198

(2) 平成17年度の臨時開館・休館

千葉県の子立博物館は、毎週月曜日（休日の場合はその翌日）と年末年始を定期休館日としています。海の博物館では、右表の通り利用者が集中するゴールデンウィーク、夏休み期間中の定期休館日および年末・年始に臨時開館しました。

施設のメンテナンス作業などのため、5月10日、12月20日～21日、1月11日 を臨時閉館日としました。

臨時開館日	入場者数
平成17年 5月 2日	591
平成17年 8月 1日	370
平成17年 8月 8日	704
平成17年 8月 15日	1,082
平成17年 8月 22日	556
平成17年 8月 29日	456
平成17年 12月 28日	193
平成18年 1月 2日	660
平成18年 1月 3日	692
平成18年 1月 4日	535
計	5,839

(3) 防災避難訓練



海の博物館では、毎年空気が乾燥し、火災が多発する冬季に防災避難訓練を実施しています。本年度も職員の火災に対する防災意識の向上と初期消火の重要性を目的に、防災訓練を2月23日に実施しました。また、放水訓練では、どの程度の水圧がかかり、どの程度の水量があるかの体験をしました。これらの経験を今後の活動に活かしていきたいと考えています。早く訓練に参加していただいたお客様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(4) 博物館への手紙

「博物館への手紙」は、みなさまからのご意見やご要望、海の生きものに関するご質問などをお寄せいただく窓口です。展示ロビーに用紙と投函箱が備えてあり、お気軽に利用できるようになっています。

・ いつも何げなく入っている千葉の海。知らなかった事ばかりで、とても勉強になりました。いつまでも、この美しい海が残る様、環境に気を付かった生活をしなくてはノと感じました。サーフィンが終わったら即、帰るのではなく、浜に落ちている貝や打ち上げられている魚など……もっと興味を持って見てみたいと思います。(女性)

・ すごくいい勉強になりました。夏休みになったらもう一度来て自由研きゅうにしたいです。(9歳男性)

・ マリタイムシネマや、展示室などが、何度来ても楽しいです。でも、もうちょっと種類があった方が、もっと楽しめると思います。夏休みの宿だいのさんこうになります。(10歳女性)

・ 映画などがすごくおもしろかった。わかりやすかった。海にますますいきたくなった。標本がすごかった。特に虫たちの。(11歳男性)

・ 見た生物がいたやつもあれば、いない物もいて、とてもびっくりしました。勉強になりました。サメ、貝、魚達、いろんな種類があることがよくわかりました。貝、あんな大きいのみた事ありませんでした。海に行った時など、その生物がいるか、さがしたいです。(12歳男性)

・ マリタイムシネマをみて、いっぱいうみのいきものをおぼえた。いっぱいみれて、たのしかったです。(7歳女性)

・ もうちょっと見る物をふやして2かいや3かいなどをつくってくれるとたのしいので作ってください。もうすこしてでふれるものを多くしてください。(9歳女性)

・ 今日初めて来館しました。すごく勉強になり、たのしめた所でした。子どもができて、大きくなったらここに連れてきて観せたいと思いました。シアターもすごくよかったです。(30歳女性)

・ 一角の標本を初めて見て感動しました。(無記名)

・ 充実した展示を興味深く拝見させていただきました。孫と一緒に夏休みの最良の思い出になりそうです。ありがとうございます。(65歳女性)

・ もう少し広くして、てんじ物を多くしたほうがいい。20分程度であきる。せまい！(無記名)

・ 「見て、さわれる」展示がすごくわかりやすくとてもよかったです。展示のとなりに解説シート、ワークシートがあり、くわしく知ることができました。種類も豊富にあり、海でみてきたものの名前を知る事もできました。これからもおもしろい博物館をめざしてがんばって下さい。また来てみたいです。(無記名)

・ 解説があってよかった。(16歳女性)

・ いろいろといっぱいさかなやいそぎんがあってよかった。(10歳女性)

平成18年度の行事案内

(1) マリンサイエンスギャラリー

アサクサノリ ―ノリの自然誌―

平成18年12月23日（土・祝）～平成19年4月8日（日）

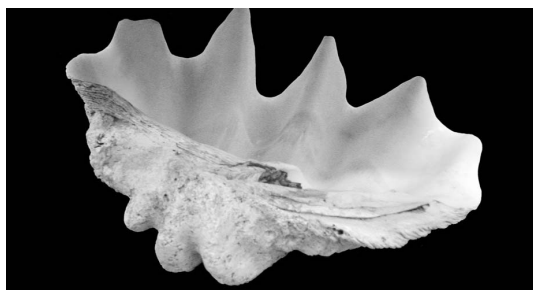


江戸時代から養殖が行われ、私たちになじみの深いノリ（海苔）。特に「浅草海苔」という名前はよく知られています。しかし、今、アサクサノリという種類が日本では希少な生きものとなってしまったことを知る人はどれほどいるのでしょうか？平成18年度マリンサイエンスギャラリー「アサクサノリーノリの自然誌」では、身近な食材であるノリの、生きものとしての姿を、絶滅の危機にあるアサクサノリという種類を通して紹介します。

(2) 収蔵資料展

大きい貝・小さい貝

平成18年7月15日（土）～9月18日（月・祝）



私たちに馴染みの深い貝類は、昆虫に次いで繁栄している動物といわれており、極めて多様性に富んだ貝殻を持っています。今回の収蔵資料展では、貝の殻の大きさに注目し、さまざまな大きさの貝類を紹介します。

(3) 講座・観察会・フィールドトリップ・バックヤードツアー

講 座

実施日	時間	タイトル	内 容	定員	対 象
H18. 4.29(土)	13:00-15:00	親子で磯の生きものを観察しよう1	同日午前採集した生きものを詳しく観察したり、実験を行います	20名	小学生(保護者同伴)
H18. 4.30(日)	13:30-15:30	ウミウシを調べよう	同日午前採集したウミウシを顕微鏡を使って詳しく観察します	20名	小学生高学年以上
H18. 6.11(日)	12:30-14:30	親子で磯の生きものを観察しよう2	同日午前採集した生きものを詳しく観察したり、実験を行います	20名	小学生(保護者同伴)
H18. 6.18(日)	13:00-15:00	親子で魚拓を作ってみよう	魚の体のつくりを学びながら、魚拓づくりにチャレンジします	20名	小学生(保護者同伴)
H18. 9.17(日)	13:00-15:30	イソギンチャクを知る	標本やスライド、ビデオを使ってイソギンチャクの全てを紹介します	10名	中学生以上
H18. 10.29(日)	13:00-15:00	"電子顕微鏡で海の生きものを観察しよう"	電子顕微鏡でさまざまな海の生きものを観察します	10名	小学生以上(小学生は保護者同伴)
H18. 11.26(日)	13:00-15:00	クジラの雑学講座	クジラに関する動物学、水産学や民俗的な話題について解説します	15名	高校生以上
H18. 12.10(日)	13:00-15:00	ヤドカリ入門	ヤドカリの体のつくりや興味深い生態を紹介します	15名	高校生以上
H19. 2.4(日)	13:00-15:00	アサクサノリという生きもの	絶滅危惧種となっているアサクサノリとその仲間について紹介します	20名	一 般
H19. 3.3(土)	13:00-15:00	海 鳥	海の博物館周辺の海辺で見られる海鳥を紹介します	20名	中学生以上

18年度の講座ピックアップ

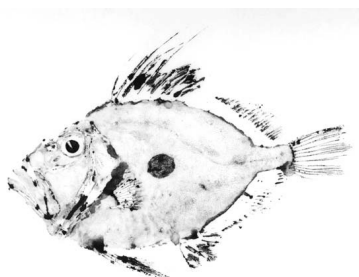
「親子で磯の生きものを観察しよう」平成18年6月11日(日)



午前中の観察会で見つけた生きものを室内でじっくり観察したり、簡単な実験を行います。

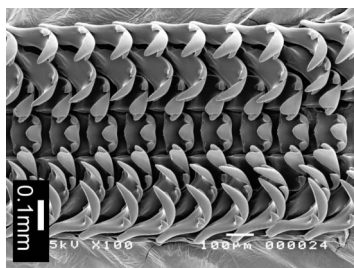
ヤドカリはどんな物に入るのか？ヒトデはどうやって脱出するのか？実際に自分の目で確かめてみましょう。観察会「親子で磯の生きものを探そう」とあわせてお申し込み下さい。(村田明久)

「親子で魚拓を作ってみよう」平成18年6月18日(日)



魚拓は墨を使って魚の体の形を紙に写し取った物です。写真や標本を作る技術がなかった時代や、それらを持ち合わせない人々にとっては、魚の記録を残す良い方法でした。この講座では、親子で魚の体の作りを学びながら、実際に魚拓作りにチャレンジします。最初は上手にできなくとも、講座が終わる頃には、それぞれに満足いく1枚が刷り上がっていることでしょう。材料は、全て博物館で用意しますので、ぜひご参加下さい。(乃一哲久)

「電子顕微鏡で海の生きものを観察しよう」平成18年10月29日(日)



ハナマルユキダカラガイの歯舌(しぜつ)の走査型電子顕微鏡写真

海の博物館では来年度初めて行う行事です。この行事では、博物館の走査型電子顕微鏡を使って、磯にいるウニや貝、その他さまざまな生きものの姿形を数千倍にまで拡大して観察し、皆様をミクロの世界にご招待します。驚くほど精巧にできた体のつくりを観察すると、普段気に留めることのない生きものの生活の様子にまで思いを馳せることができると思います。(柳 研介)

「クジラの雑学講座」平成18年11月26日(日)



クジラ類は、私たちと同じほ乳類の仲間ですが姿、形は全く異なります。標本や写真などを交えてクジラの体のつくりや変わった特徴、興味深い行動などを解りやすく紹介します。この講座で利用しているクジラ類の標本は、漂着した個体から収集したものです。ザトウクジラのヒゲやマッコウクジラの歯など実際に手に持って観察できるように準備をしています。また、房総半島周辺には多くの種類のクジラ類が生息していますので、併せて紹介します。(藍澤正宏)

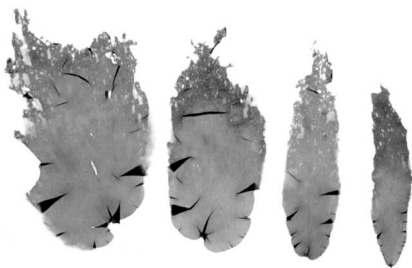
18年度の講座ピックアップ（続き）

「ヤドカリ入門」平成18年12月10日（日）



磯の人気者のひとつにヤドカリがいます。しかし、貝の中のヤドカリの体ってどのような格好をしているのだろう、ヤドカリはどうやって貝殻をせおっているのだろうなど、磯の観察会では見られないヤドカリの“謎”はまだたくさんあります。12月10日（土）に開催予定の講座「ヤドカリ入門」では、体のつくりや興味深い行動などを紹介することによって、ヤドカリによりいっそうの興味を持っていただけるようなプログラムを準備しています。（奥野淳兒）

「アサクサノリという生きもの」平成19年2月14日（日）



マリンサイエンスギャラリー「アサクサノリーノリの自然誌ー」に合わせて、講座「アサクサノリという生きもの」を行います。乾海苔の代名詞でもある「浅草海苔」の原料となる「アサクサノリ」と、それが属するアマノリ属という仲間の、生きものとしての姿や生活の様子、絶滅が心配されるようになってきた種類の現状などを、10年間近くに渡るアマノリ属の調査結果をもとに、展示以上に深く掘り下げて紹介したいと考えています。（菊地則雄）

観察会

実施日	時間	タイトル	内容	定員	対象
H18.4.23(日)	10:00-15:00	春の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	20名	中学生以上
H18.4.29(土)	10:00-12:00	親子で磯の生きものを探そう1	親子でよく見られる磯の生きものを観察します	20名	小学生(保護者同伴)
H18.4.30(日)	10:30-12:30	ウミウシを探そう	博物館前の磯でウミウシを観察します	20名	小学校高学年以上
H18.5.28(日)	10:00-12:00	エビ・カニ探検隊	平磯でエビやカニなどの甲殻類を探し、観察します	15名	小学生(保護者同伴)
H18.6.11(日)	9:30-11:30	親子で磯の生きものを探そう2	親子でよく見られる磯の生きものを観察します	20名	小学生(保護者同伴)
H18.7.16(日)	10:00-15:00	夏の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	20名	中学生以上
H18.7.23(日)	9:00-11:00	はじめての磯遊び	安全な海岸において、親子で海の生きものの観察をおこないます	20名	保育園、幼稚園児(保護者同伴)
H18.7.30(日)	10:30-12:30	親子で磯の小魚を探そう	海の博物館前の磯で、小魚を探して観察します	15名	小学校高学年以上
H18.8.13(日)	13:00-15:00	水中メガネで海の生きものを観察しよう	水中メガネの使い方を学び、海の生きものを観察します	20名	小学生(保護者同伴)
H18.10.8(日)	10:00-15:00	秋の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	20名	中学生以上
H19.1.28(日)	10:00-15:00	冬の植物	鵜原理想郷で見られる植物を観察します	20名	中学生以上
H19.3.3(土)	10:00-12:00	海辺の野鳥	海の博物館周辺で見られる野鳥を観察します	20名	中学生以上
H19.3.21(日)	10:30-13:00	海藻を観察しよう	潮間帯で春先に見られる海藻を探して観察します	20名	一般

フィールドトリップ

実施日	実施日	タイトル	定員	実施日	実施日	タイトル	定員
H18.4.1(土)	11:45-12:15	磯の生きもの1	10名	H19.8.26(土)	11:30-12:30	磯の生きもの13	15名
H18.4.1(土)	12:30-13:00	磯の生きもの2	10名	H19.3.11(日)	14:00-15:00	磯の生きもの14	15名
H18.4.2(日)	12:30-13:30	磯の生きもの3	10名	H19.3.24(土)	13:30-14:30	磯の生きもの15	15名
H18.5.3(水・祝)	13:30-14:00	磯の生きもの4	15名	H19.3.25(日)	14:30-15:30	磯の生きもの16	15名
H18.5.3(水・祝)	14:15-14:45	磯の生きもの5	15名	バックヤードツアー			
H18.5.3(水・祝)	14:30-15:30	磯の生きもの6	15名	実施日	実施日	タイトル	定員
H18.5.27(土)	10:00-11:00	磯の生きもの7	10名	H18.9.24(日)	13:00-13:30	バックヤードツアー1	15名
H18.6.25(日)	10:00-11:00	磯の生きもの8	10名	H18.10.9(月・祝)	13:00-13:30	バックヤードツアー2	15名
H18.7.15(土)	13:00-14:00	磯の生きもの9	10名	H18.11.5(日)	13:00-13:30	バックヤードツアー3	15名
H18.7.29(土)	12:30-13:30	磯の生きもの10	15名	H18.12.3(日)	13:00-13:30	バックヤードツアー4	15名
H19.8.12(土)	12:00-12:30	磯の生きもの11	15名	H19.1.21(日)	13:00-13:30	バックヤードツアー5	15名
H19.8.12(土)	12:45-13:15	磯の生きもの12	15名	H19.2.11(日)	13:00-13:30	バックヤードツアー6	15名

(4) 海の体験コーナー

各日とも11:00からと13:30からの1日2回、約20分間開催します。また、下記の予定日以外にも開催することがあります。体験メニューの内容は毎回変わります。詳細につきましては、博物館までお問い合わせください。

H18.4.8(土)	H18.4.22(土)	H18.8.4(金)	H18.8.18(金)	H18.8.25(金)	H18.12.9(土)	H18.12.23(土・祝)
H18.5.2(土)	H18.5.13(土)	H18.9.2(土)	H18.9.23(土・祝)		H19.1.13(土)	H19.1.2(土)
H18.6.3(土)	H18.6.17(土)	H18.10.7(土)	H18.10.14(土)		H19.2.3(土)	H19.2.17(土)
H18.7.8(土)	H18.7.22(土)	H18.11.3(金・祝)	H18.11.18(土)		H19.3.3(土)	H19.3.24(土)

お申し込み方法

講座と観覧会

ひとつの行事ごとに1 住所、2 氏名、3 電話番号、4 年齢、5 ご希望の行事名、6 電子メールアドレス（お持ちの方）を明記の上、ハガキ、FAX、または電子メールにて、行事開催日の二週間前までに海の博物館あてにお申し込み下さい（ロビー受付でもお申し込みいただけます）。なお、お申し込み多数の場合には抽選とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。また、定員に満たない場合は、随時受付を行いますので、お問い合わせ下さい。

フィールドトリップとバックヤードツアー

当日先着順に受け付けます。開始時刻の10分前までにロビー受付で手続きを済ませてください。なお、定員となりしだい受付を締め切らせていただきますので、ご了承ください。

海の体験コーナー

定員はすべて6名で、定員をこえた場合はその場で抽選となります。定刻になりましたら、展示室カウンター前にお集りください。体験メニューの内容は毎回変わります。詳細につきましては、博物館までお問い合わせください。

(5) 海の環境学習研修会

海辺での校外学習を計画・担当する学校の先生を対象とした研修会です。平成18年度の環境学習研修会は、今年度と同様総合教育センターとの共催で、「海の環境学習講座」というタイトルで、8月8日（火）、8月9日（水）、8月23日（水）の3日間、定員20名で実施する予定です。詳細については総合教育センターの研修案内をご参照ください。ご参加お待ちしております。

職員から

次の世代の人が海の環境を学び、磯遊びの楽しさを知っていただくために学校との連携を進めています。(堀江)

自分の過去を振り返る時、一番難しい事は、人生において「選択」という二文字だと思います。これによって自分の一生が決まってしまう、大なり小なり冒険でありクジ引きだと思います。じっくり比較検討した上で選択できたら、自分の今はまた違っていたかも？(吉村)

博物館にいと季節の移り変わりがよく分かります。4月は、わかめ狩りの季節、前の磯にもぎやかになります。色々な恵みを与えてくれる海に感謝しながら仕事ができる職場です。(近藤)

博物館はこの2年間で有料化などの大きな変化がありましたが、海の博物館は今のまま明るい雰囲気でお利用者の方々に慕われる博物館であってほしいと思います。5年間大変お世話になりました。(三平)

千葉県海や川に生息する魚類は、どのくらいの種類数になるのでしょうか？学術論文や報告書などの調査から房総半島周辺には約1,300種の魚類が報告されています。海の博物館には県内各地で収集された魚類標本が約600種、報告されている種数の約半分です。(藍澤)

私は、館山市にある県立安房博物館の研究員も兼務しています。秋から春にかけては、車窓からの景色や気温が館山市と居住地の茂原市、普段勤務している勝浦市とは顕著に異なり、千葉県の広さが実感できる季節です。(乃一)

今年度は台湾での国際学会をはじめ、国内外の学会・研究会で発表する機会の多い1年間でした。研究成果は、博物館活動の中でみなさんに還元していきたいと思っています。(川瀬)



このたび、千葉県史の最後の一巻として、「千葉県動物写真集」が刊行されました。全体で460ページあまりの中の半分近くが海の動物のパートで、当館の研究員の撮影した写真も多数掲載されています。当館のロビーの図書コーナーにありますので、ぜひ一度ご覧ください。(立川)

東京湾多摩川河口に生育するアサクサノリが報道され、予想以上の反響に、嬉しさとともに戸惑いが生じました。今後の状況を見守っていかねば、と思っています。(菊地)

今年度の9～10月にかけて、いくつかの論文提出の締切りが集中しました。研究職で採用された博物館人として、穴をあけることは許されません。何とか無事にすべて投稿できましたが、寿命が縮まる思いでした。(奥野)

博物館を巡る環境も大きく変化してきました。博物館活動の根本である資料管理や研究活動がおろそかになりがちです。来年度は目に見えにくいこのような活動をもう少ししっかりとやっていきたいと思っています。(柳)

今年はいろんな事がありました。しっかりとしようと思います。(村田)

海博がいつまでも人々に愛される博物館でありますように。(高橋)

あまり知られていないのですが中庭のツチクジラの骨格標本にはライトアップの時間があります。僅かな時間ですが意外と綺麗ですよ。(高梨)

職員の異動

平成18年3月30日

高橋亜紀(体験学習指導員)退職

平成18年3月31日

吉村和子(主査)退職

三平晃子(副主査)転出

(千葉県立安房高等学校)

ご利用の案内

開館時間	午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
休館日	毎週月曜日(ただし月曜日が休日に当たるときは翌日です) *その他に臨時開館・休館があります。詳しくは下の連絡先までお問い合わせ下さい。
入場料	一般:200円 高校生・大学生:100円 中学生以下・65歳以上:無料 障害者およびその介護者:無料
駐車場	午前8時30分～午後5時15分(年中無休、入車は4時15分まで)*夏期時間延長あり
駐車場料金	普通車 2時間まで200円、以後1時間ごとに100円 大型車 2時間まで600円、以後1時間ごとに300円
交通	*電車・バスをご利用の場合 ・JR外房線鵜原駅から徒歩15分 ・JR外房線勝浦駅から小湊鉄道バス興津経由「松野」行き「吉尾入口」下車、徒歩約12分 ・JR房総勝浦駅から小湊鉄道バス「海中公園・海の博物館」行き終点下車、徒歩0分(土曜日・日曜日、祝日のみ) ・JR外房線勝浦駅からタクシーで約10分 *電車・バスをご利用の場合 ・千葉市からR16(市原)、R297(大多喜)、R128(勝浦)を使って約2時間 ・東京湾アクアラインから館山自動車道R409、R297、R128を使って約1時間半 ・館山市からR128(鴨川)を使って約1時間半 ・銚子市からR126(東金)、R128(勝浦)を使って約3時間

平成17年度 千葉県立中央博物館分館海の博物館 ニュースレター「いそび通信」No.7 平成18年3月31日発行

編集・発行 千葉県立中央博物館分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123 電話 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821

e-mail: umihakuchiba-muse.or.jp URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>